



# 看取りを考える勉強会

東京都特別養護老人ホーム 白十字ホーム  
家族会 事務局長 加藤 七恵





## 特別養護老人ホーム 白十字ホーム

今年度は記念行事を計画実施

東京都東村山市のアニメ「トトロの森」でおなじみの八国山緑地の豊かな自然環境の中にあります。  
利用者定員 170名

白十字ホーム開設50周年  
・家族会設立40周年



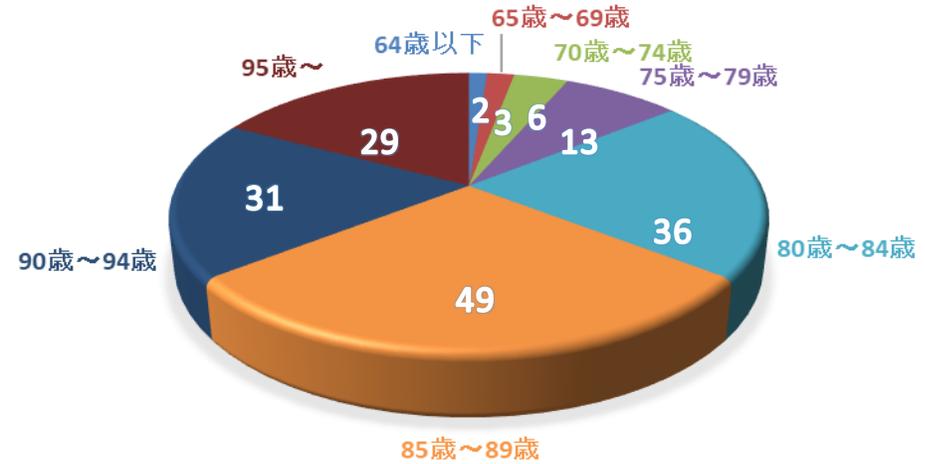


# 利用者状況(169名 男性27名 女性142名)

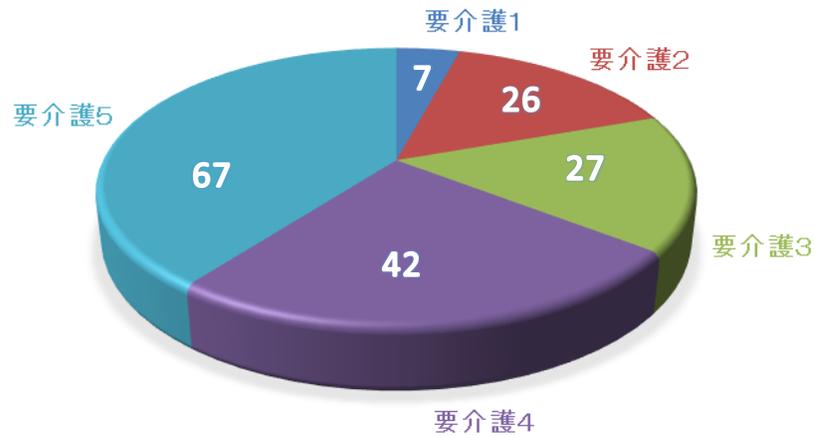
## 利用者在籍期間



## 年齢別



## 介護度別



## 賀のお祝い

上寿(103歳 101歳)4名 百寿 1名  
白寿 3名、米寿8名、喜寿 6名、古希 1名  
在園 20周年 1名、15周年 1名、10周年 4名



## 白十字ホーム家族会

昭和51年設立、ホームを利用しているお年寄りが安心して気持ちよく生活できるように、お年寄りの立場に立って、ホーム全体のケアの質を良くするために、家族の立場から改善をホームに要望し、そのための援助や協力をしていくことを目的としています。

### 運営委員会役員構成

会長1名・副会長2名

会計2名・会計監査2名・事務局長1名

(ホーム設置 第三者委員会2名)

生活委員会

行事委員会

広報委員会

正副委員長各1名

正副委員長各1名

正副委員長各1名

生活委員

行事委員

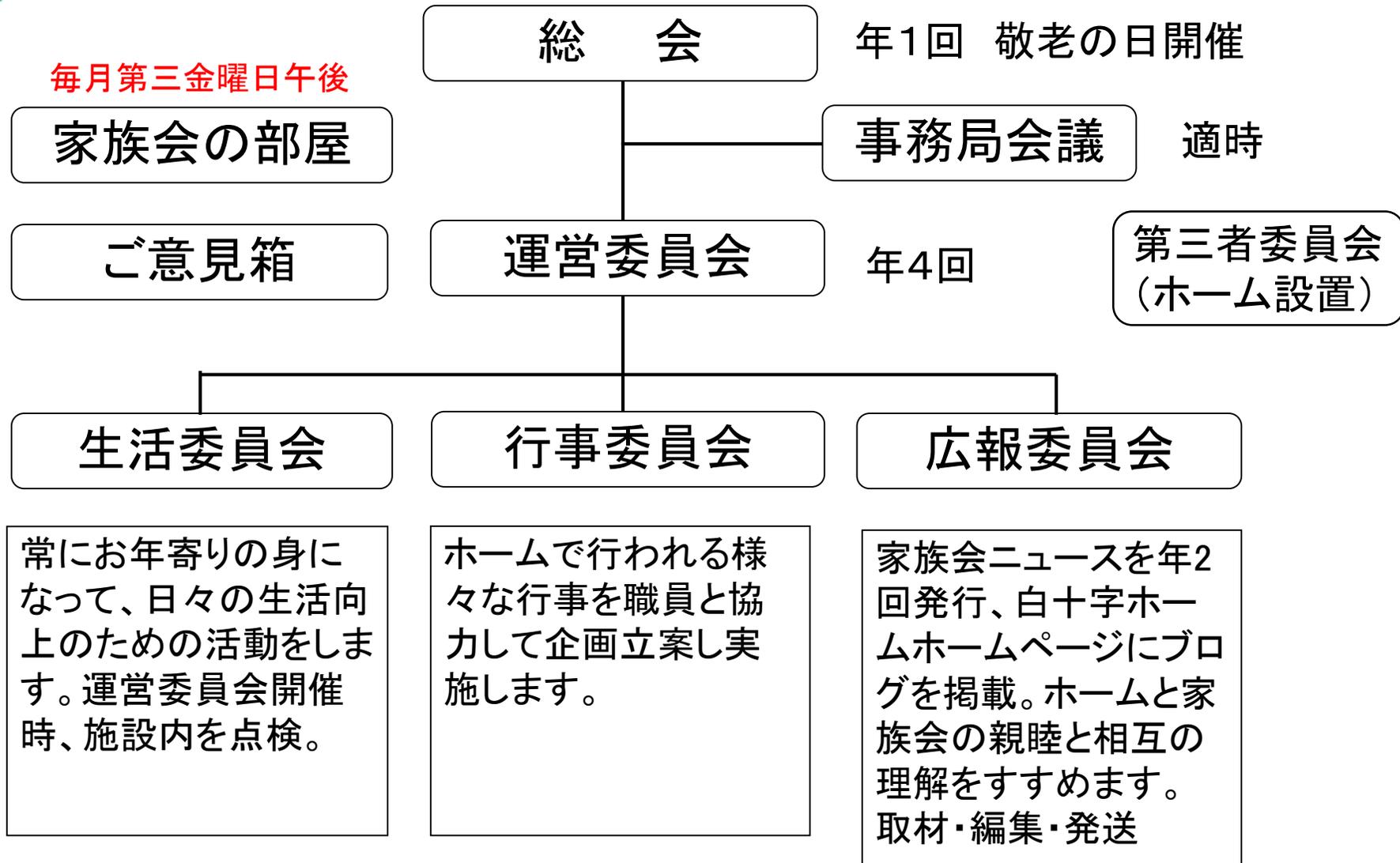
広報委員

運営委員会の様子





# 家族会 組織図





## 看取りを考える勉強会

口から食べられなくなったらどうしますか？

- きっかけは「胃ろう」
- あいまいな理解のなかで判断を迫られる家族の戸惑い
- 家族会として何ができるか
- 家族会の事業計画に「看取りを考える勉強会」を位置づける
- 勉強会のメンバー 会長 副会長 各委員会から2名 アドバイザー  
ホーム職員
- 家族向けに報告会を開催し、「看取り」についての情報を提供し、終末期の医療を選択する場合の手助けをする



## 看取りを考える勉強会パート I

平成24年12月～平成25年10月 9回開催

体験談をお聞きする(8家族11例)

ホームとして何ができるか、できないかを聞く

医師から「高齢期の終末医療について」

「特別養護老人ホームにおける終末期医療の報告」

資料の読み合わせ

「特別養護老人ホームにおける胃ろう等による経管栄養に関する実態調査」報告書サマリー

「高齢者ケアの意思決定プロセスに関するガイドライン」

日本老年医学会



## 看取りを考える勉強会パート I からわかったこと

### 家族の判断

- 食事が摂れなくなり、終末期にかかった段階で、判断を求められるが、その時点で判断できない事例が多くみられた
- 家族として事前の知識が必要、誤解も多い
- 家族の中でも判断がわかる(生活、文化、死に関する経験)

### 本人の意思

- 本人の意思確認については事前の確認が必要だと思われる。その時になってからでは遅すぎる

### 白十字ホームの体制

- 白十字病院も併設され、また退院時も受け入れてくれる。



## 看取りを考える勉強会パートⅠ 報告会

- 平成25年11月28日開催（白十字ホーム 八国ホール）
- 参加人数 59名
- 内容
  - 家族の立場からの発表
    - 「終末期の介護と医療」
  - 職員の立場からの発表
    - 「白十字ホームにおける看取り介護について」
  - 医師の立場からの発表
    - 「高齢者の終末期医療について」
  - 質疑応答
- 平成26年3月 「看取りを考える勉強会報告書」の刊行



## 看取りを考える勉強会パートⅡ

平成26年10月～平成27年3月 4回開催

認知症について、家族からの要望に応じて勉強会を開催  
医師との意見交換、資料の読み合わせ

平成27年3月講演会開催

「認知症という病気を正しく理解するために」

講師 白十字病院 田熊規方医師

・基礎知識・治療とケア・予防

※ 講演会終了後、看取りを考える懇談会を開催

刊行した「看取りを考える勉強会報告書」を活用し、小グループに分けて懇談



## 看取りを考える勉強会パートⅢ

誰にも最後の時がきます  
その時本人の意思が確認できればいいのですが  
家族の決断をどうすればよいかを勉強会の課題としました

平成27年12月 打ち合わせ会、2年間の振り返りと今後の方向性  
終末期を迎え悩まれるご家族も継続しておられるため、  
ご家族の手助けになるような勉強会

平成28年2月～平成29年7月 9回開催  
体験談を4つのステージについて語っていただく  
(10家族10例)



## 体験談を4つのステージについて語っていただく

- ① 元気な頃はどんな人となりだったか  
死生観が感じられるようなエピソードなど
- ② ホームに入所するきっかけはどういうことだったか  
その時のご家族のエピソード
- ③ ホーム入所後どのように暮らしていたか  
ご家族としてのエピソード
- ④ 終末期をどのように過ごされたか  
ご家族はどのような気持ちだったか



## 事例報告1

Aさん（女）

入所年月日	平成25年4月
死亡年月日	平成27年11月（90歳）
死亡場所	白十字ホーム
既往症	子宮摘出（若い頃） レビー小体型認知症 狭心症 高血圧 完全房室ブロック
キーパーソン	姪
家族・・親族関係	夫と死別し単身 姉（死亡）と仲が良かった
亡くなる経過	白十字ホーム入所時は自己で車椅子操作可能であったが、食事を摂れなくなり姪の判断で延命より看取りを選択した。死亡1週間前にビールを飲めた。
その他	死亡1か月前にAさんは姪に「ありがとう」と言ったとのこと。姪は看取りを選んだが、親ではなく叔母だったので、このような選択をしたのかと悔いを残している



## 事例報告2

Bさん（女）

入所年月日

平成19年11月

死亡年月日

平成28年8月（99歳）

死亡場所

白十字ホーム

既往症

アルツハイマー型認知症 左肋骨骨折 足首骨折

キーパーソン

長男

家族・親族関係

子ども3人、本人の兄弟など。いずれも本人の長男にまかせると言っている。

亡くなる経過

入院したが、あと1か月と言われホームで看取ることにした。個室に入り半月ほどで亡くなった。本人は満足そうな表情をしていた。

その他

本人の死生観を示すものとして、本人の夫が亡くなった時に「このまま父さんを静かに看取る」と言っていた。



## 事例報告3

Cさん（女）

入所年月日	平成26年8月
死亡年月日	平成27年8月（80歳）
死亡場所	白十字ホーム
既往症	糖尿病（30年前） 慢性心房細動 脳梗塞（H16 H22 H23） 心原性脳梗塞（H26） アルツハイマー型認知症 症候性てんかん
キーパーソン	長男の妻
家族・親族関係	夫。 長男の妻が毎日通ってインスリン注射をしていた。
亡くなる経過	入所時より要介護で全介助、食事は濃厚食だった。食事が摂れなくなりましたが、医師より本人の状態から胃ろうも経鼻経管も無理と言われ看取りとなった。長男の妻は本人は心臓が悪く苦しそうなので、これ以上は苦しめたくなかった。
その他	本人の人柄もよく嫁姑関係もよかった。



## 看取りを考える勉強会パートⅢ 報告会

- 平成29年8月3日開催（白十字ホーム 八国ホール）

- 参加人数 66名

- 内容

  - 家族の立場からの発表

    - 「終末期の介護と医療」

  - 職員の立場からの発表

    - 「自然に安心して最後の時を迎えるために」

  - 医師の立場からの発表

    - 「高齢者の終末期医療(看取り)について」

  - 質疑応答



## 事例からわかったこと

- ・ 経管栄養による延命かそのままで看取りかという選択の余地のない場合がある  
身体的に経管はできない場合 経管にする間もなく急変し死亡したケース
- ・ 看取りかどうかの選択にあたって、文書に残すはっきりした意思表示のケース  
または文書ではないが、態度でなんとなく本人の意志が推測される例もあった  
権利書を引き渡しておく、IVHを引き抜くなど人工的延命を嫌がるなど
- ・ 家族・親族の仲が良い方が、意思決定もできやすい
- ・ 家族・親族の死亡対処に経験があったかどうかは判断に影響している
- ・ 延命か看取りかの判断は医師がするのではなく、本人、家族がすることが多くなった。
- ・ 今回の事例では看取り事例が多かったが、経管栄養方も20%程度います。



## 看取りを考える勉強会パートⅢ 報告書 ご家族の意見と感想(アンケートから)

- 「看取り」の意味がわからなかったがよく理解できた
- いろいろな事例を聞かせてもらうのは非常に参考になる。本人に尋ねても本心かどうかわからない。最後は家族が決めるしかない。
- 前回の勉強会に参加して兄弟で考える機会を持ってました。今回は「もっと知りたい」と感じました。
- 家族、職員、ドクター各各の立場からのお話がよかった。
- \* 今後聞いてみたいテーマ
  - 一人ずつの違いがあるので、いろいろな事例を知りたい。
  - 最後の対応(主に食べ物...好きな物を食べさせたかった)
  - お別れ会の内容、お別れ会ができること



## 看取りを考える勉強会パートⅢ報告会





# お別れ会

太鼓サークルの皆さんの演奏でお見送り

